

じょうぎょうじうらいせき(むつうらにちようめ  
ごばんちやぐらぐん)

## 上行寺裏遺跡(六浦2 丁目5番地やぐら群)

(金沢区No.40遺跡)

調査期間 20060721～20060919  
20070502～20070626

所在地 横浜市金沢区六浦2  
丁目地内

時代 中・近世



## 概要

上行寺裏遺跡は北を横浜市大、東を京急本線と金沢八景駅、南を環状4号線に画された丘陵がその範囲として周知されています。今回調査を行った「六浦2丁目5番地やぐら群」は、上行寺裏遺跡の南西端付近の環状4号線に面する丘陵の先端にあり、急傾斜地崩壊対策工事の事前調査として発掘調査を行いました。

平成18年度の調査に引き続き、東側に隣接する部分のやぐらの調査と、やぐらの所在する崖上の丘陵先端尾根上にある「伝小山若犬丸二児の墓」とされる五輪塔3基が擁壁工事の範囲にかかっていたことから、現況の平面・立面図の測量と移設、五輪塔が立っていた部分の発掘調査を行いました。

やぐらの内、比較的大型のものは戦中の防空壕として改変されていたり、車庫や物置として利用されていたため、内部からの出土遺物はほとんどありませんでした。しかし、やぐら前面の掘削中に、過去にやぐら内から掻き出されたと思われる、人骨と中～近世のかわらけ・陶磁器類が出土しました。また、比較的小型のやぐらの1基から、床面に掘られた溝状の部分に立てられていたと考えられる、緑泥片岩製の板碑の破片が見つかりました。

やぐらの調査中に、2箇所床面から地下式坑(地下に掘られた部屋)2基が見つかりました。遺物はなく、1基は防空壕とつなげられ、改変されていましたが、少なくとも防空壕を掘った時期よりも古い段階から存在していたようです。

尾根上の五輪塔部分の調査は、五輪塔を10mほど北側に移設した後、立っていた場所の発掘調査を行いました。調査の結果、埋葬施設などは見つかりませんが、岩盤が平らになっていることがわかり、その平場を覆った土の中から中世のかわらけの破片が出土しました。五輪塔がいつ頃立てられたのかは今のところはっきりしていませんが、中世のころから尾根の上で祭祀をしていたことは間違いのないようです。



▲遠景(中央丘陵先端が調査範囲)



▲10～12号やぐら(中央は防空壕)



▲「伝小山若犬丸二児の墓」五輪塔